

10. 放射線対策

福島第一原子力発電所の爆発などにより、多くの放射性物質が放出された。

石巻市においては、健康に影響が出るレベルではないが、牡鹿半島の一部に比較的放射線濃度が高い地域が出現した。

石巻市においては、原発事故の影響は、直接の放射線被害よりも、その後の風評被害の方が大きかった。特に韓国が宮城県の水産物を輸入禁止にしたことから、ホヤの輸出が滞り、養殖の再開にこぎつけても、廃棄せざるを得ない状況となった。

また、常に、市内の放射線量をモニタリングし、それを公開する体制を整えざるを得なくなった。新設の魚市場では、放射線を測定する機械を導入している。

お知らせ

持込みによる食品等の放射性物質簡易検査の開始

●市では、自家消費農作物等の放射性物質検査を開始します

対象者 市内に住所を有している方

測定品目 (対象:自家消費)

①栽培(採取)した農林作物、魚類等(自家菜園の野菜等)

②飲料用の地下水、井戸水等

※流通品、加工品、販売目的のもの等対象外のもの、または、注意事項がありますので、事前にお問い合わせください。

検査品の持ち込み(持参)方法

①1キログラムの試料が必要

②野菜や果実、魚は水洗いにより、調理素材に加工し、(5ミリ程度のみじん切り)(フードプロセッサーでも可)、ビニール袋等に入れ持参

③井戸水等は、ペットボトルに1リットル入れて持参

予約申込開始日 8月20日(月)

検査開始日 8月22日(水)

検査時間(年末年始祝日を除く)

月～金曜日

午前10時～午後3時

検査費用 無料

申込方法 日時指定の予約制です。事前に、直接または電話にて検査場所にお申し込みください。

申込先・検査場所 市役所3階環境放射線対策室(内線3366)

牡鹿総合支所市民生活課 ☎45-2112



▲EMFジャパン製
NaIシンチレーションスペクトロメータ

▲自家消費農作物等の放射性物質検査を開始をお知らせする市報いしのまき記事

11. 防疫・防虫

漁港背後地の水産加工団地にあった原魚、あるいは工業港の倉庫等にあった飼料・肥料・米穀などが腐敗し、汚泥もあり、悪臭およびハエの大発生を引き起こし、環境衛生対策に追われることとなった。

特に平成23年(2011)6月から8月までの石巻の市街地におけるハエの大発生は、被災者を苦しめることとなった。平成23年(2011)7月4日から専門業者による薬剤散布による駆除も始まり、汚泥や腐敗有機物の撤去、消毒などの対策が功を奏し、8月下旬にはハエの大発生は少なくなった。

一般家庭においてはハエ取り紙（ハエ取りリボン）が使用された場合も多かった。また、ペットボトルに酒などでつくった誘因液を入れたトラップで捕獲する工夫も行われた。

湊・渡波地区の避難所においては、薬剤が配布され、避難者自らが消毒作業をするようにした。



ピースボート災害ボランティアセンター 撮影者 / 上野祥法

▲汚泥を片づけるボランティア

12. ボランティア

発災直後から多数のボランティアが石巻を訪れ、復旧復興の一翼を担った。ボランティア活動の拠点となったのは石巻専修大学、ボランティアの受け入れ窓口は、社会福祉協議会の災害ボランティアセンターであった。

石巻市の場合、経験豊富なNPOなども早期に支援に入っており、市・自衛隊・ボランティアセンター・NPOが密に連携し、さまざまな活動が行われた。

ボランティアの仕事は、いわゆる泥出しや後片付けなどの被災者への直接的な支援だけでなく、イベントのサポートなど多岐にわたっている。詳しくは、石巻災害復興支援協議会活動報告書を参照していただきたい。

多数のボランティア・NPOの活躍およびその拠点を提供した石巻専修大学のおかげで、復旧が進んだことは間違いなく、ここにこれを明記し感謝の意を表したい。

発災後1年間で石巻で活躍したボランティアは、石巻災害復興支援協議会が把握している限り次表のとおりである。おそらく、単独でボランティア活動をした個人・団体も多くいたと思われ、実数はこれより多いと考えられる。

(単位：人)

	協議会(*1)	累計	VC(*2)	累計	協議会+VC累計
3月	1,601	1,601	2,552	2,552	4,153
4月	16,895	18,496	27,574	30,126	48,622
5月	21,041	39,537	24,840	54,966	94,503
6月	22,632	62,169	18,528	73,494	135,663
7月	19,916	82,085	17,084	90,578	172,663
8月	19,932	102,017	10,761	101,339	203,356
9月	17,101	119,118	5,343	106,682	225,800
10月	8,422	127,540	4,350	111,032	238,572
11月	7,869	135,409	1,671	112,703	248,112
12月	5,466	140,875	459	113,162	254,037
1月	4,483	145,358	1,385	114,547	259,905
2月	5,971	151,329	2,418	116,965	268,294
3月	6,217	157,546	5,004	121,969	279,515
4月	3,109	160,655	—	—	—

*1 社会福祉協議会受付分

*2 ボランティアセンター受付分



石巻市/東日本大震災アーカイブ宮城

▲石巻専修大学



2011.05.02

石巻市/東日本大震災アーカイブ宮城

▲渡波支所



▲石巻専修大学



▲河北ボランティアセンター



石巻市 / 東日本大震災アーカイブ宮城

▲石巻専修大学



石巻市 / 東日本大震災アーカイブ宮城

▲石巻専修大学

13. NPOや民間団体

NPOや民間団体・宗教団体も数多く石巻市内で支援にあたった。

発災直後から、災害支援経験豊富なNPOが石巻に徐々に集まり、物資配布、炊出し、泥出しなどの活動が始まり、石巻市災害ボランティアセンターの声掛けにより、平成23年(2011)3月20日に各団体の活動を情報共有するために「NPO・NGO連絡会」が組織された。

石巻では平成23年(2011)4月2日に「NPO・NGO連絡会」が「石巻災害復興支援協議会(IDRAC)」へと名称を変え、平成23年(2011)5月13日に法人化した以降も、多くの方々の協力によって情報共有の場と連携体制を継続することができた。

石巻災害復興支援協議会登録団体数は、平成24年(2012)2012年4月18日で、NPO法人、任意団体、株式会社、宗教法人、社団法人、財団法人など341団体であった。



ピースボート災害ボランティアセンター 撮影者/上野祥法

▲スポーツアカデミー石巻 プール泥出し



ピースボート災害ボランティアセンター 撮影者/上野祥法

▲湊滝尻 路肩そうじ



ピースボート災害ボランティアセンター 撮影者/鈴木省一

▲木の屋石巻水産 缶詰洗浄作業



ピースボート災害ボランティアセンター 撮影者/片岡和志

▲鹿妻保育所

14. 報道

発災直後から、報道関係者が石巻を訪れた。また、地元の報道関係者の中には津波に巻き込まれ、九死に一生を得た人もいた。

石巻日日新聞社は、石巻地方を対象エリアとする日刊の夕刊紙である。

津波と停電により、新聞の発行は不可能となったが、手書きの壁新聞を作成し、避難所に掲示し、報道を続けた。

その他多くの報道関係者により石巻の被災状況が全国、全世界へと報道された。

また、行政などからの一般市民への情報提供手段としても、その役割は重要であった。



石巻市/東日本大震災アーカイブ宮城

▲石巻専修大でのテレビ中継車